

マリダー！お風呂にいらおう

はあ？



は……
姫さま

お風呂と言いますと
……シャワールームの
事でございますでしょうか？

ちち
がうう
！

ここパオには
大きなお風呂が
あると聞いたぞ

私はそこに
行つて
みたいのだ

……

あ



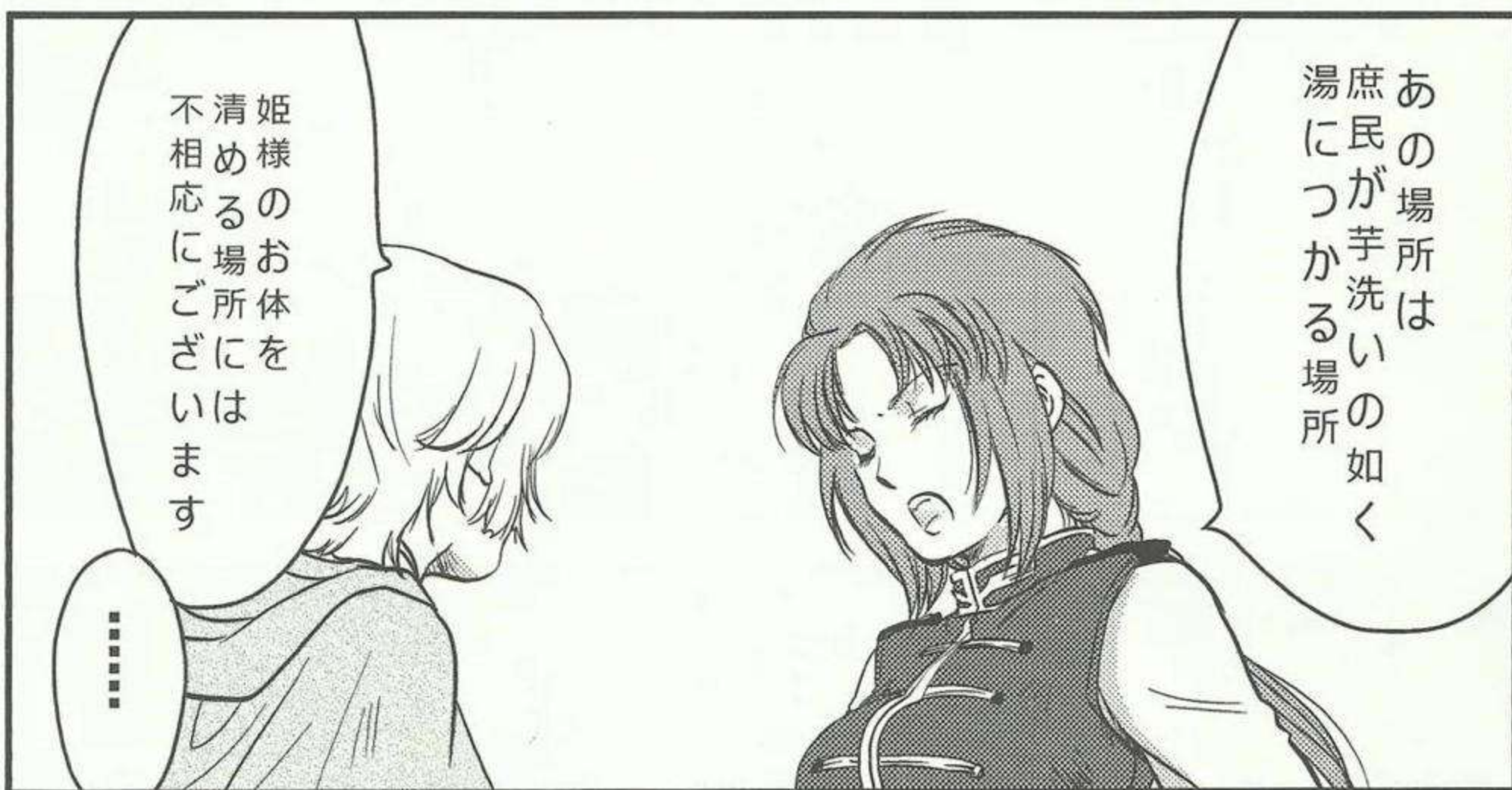
なりません



銭湯の
ことでしょうか？

そう！
きつと
それだ

ジンネマンが
とても気持ち
いいと
言っていた



あの場所は
庶民が芋洗いの如く
湯につかる場所

姫様のお体をは
清める場所には
不相応にございます

.....





すまない

私が
我儚を
言つたな



マリーダの
いう事だの

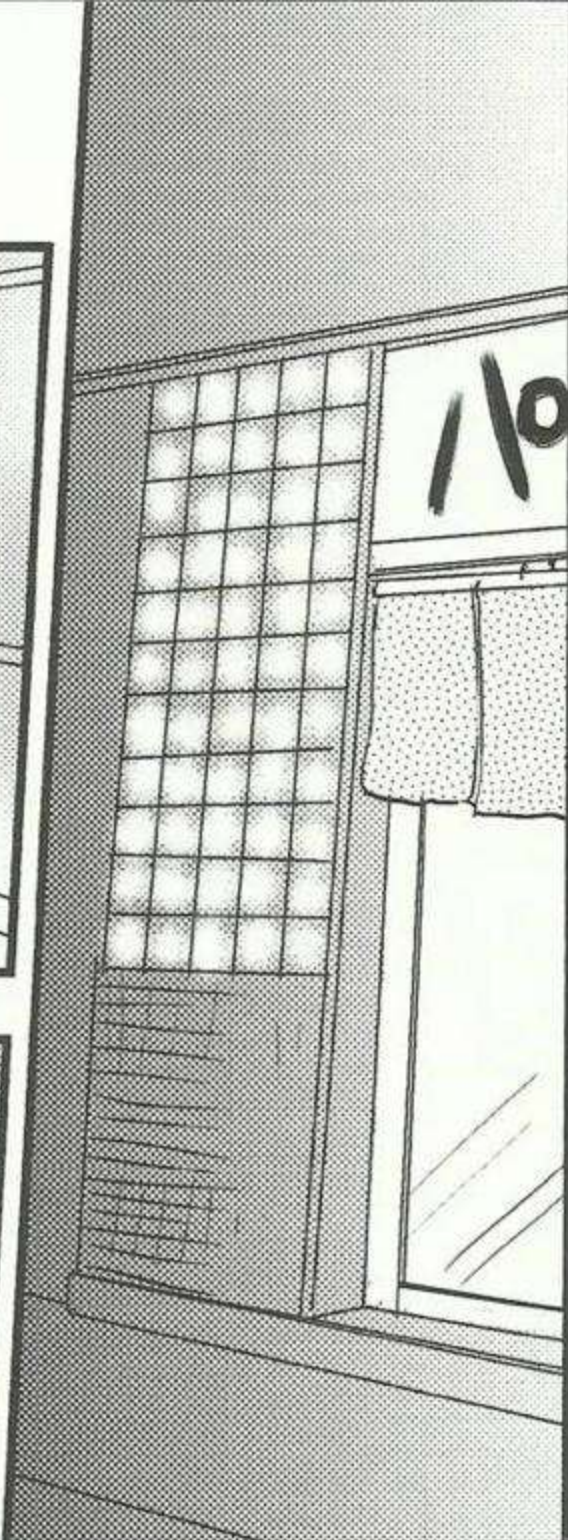
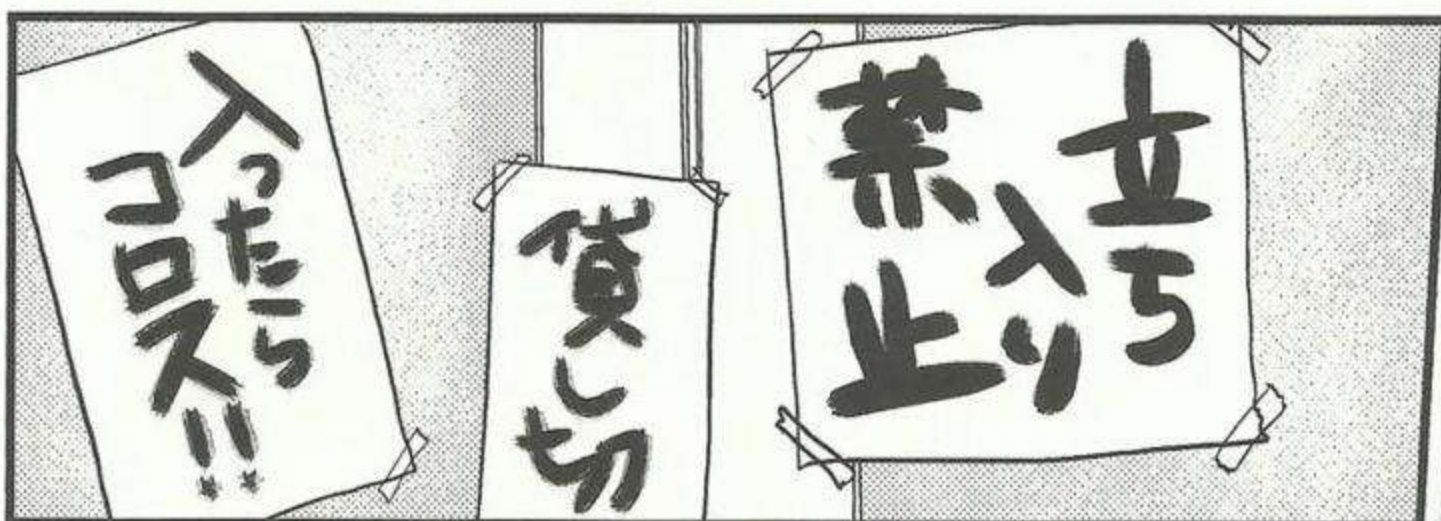
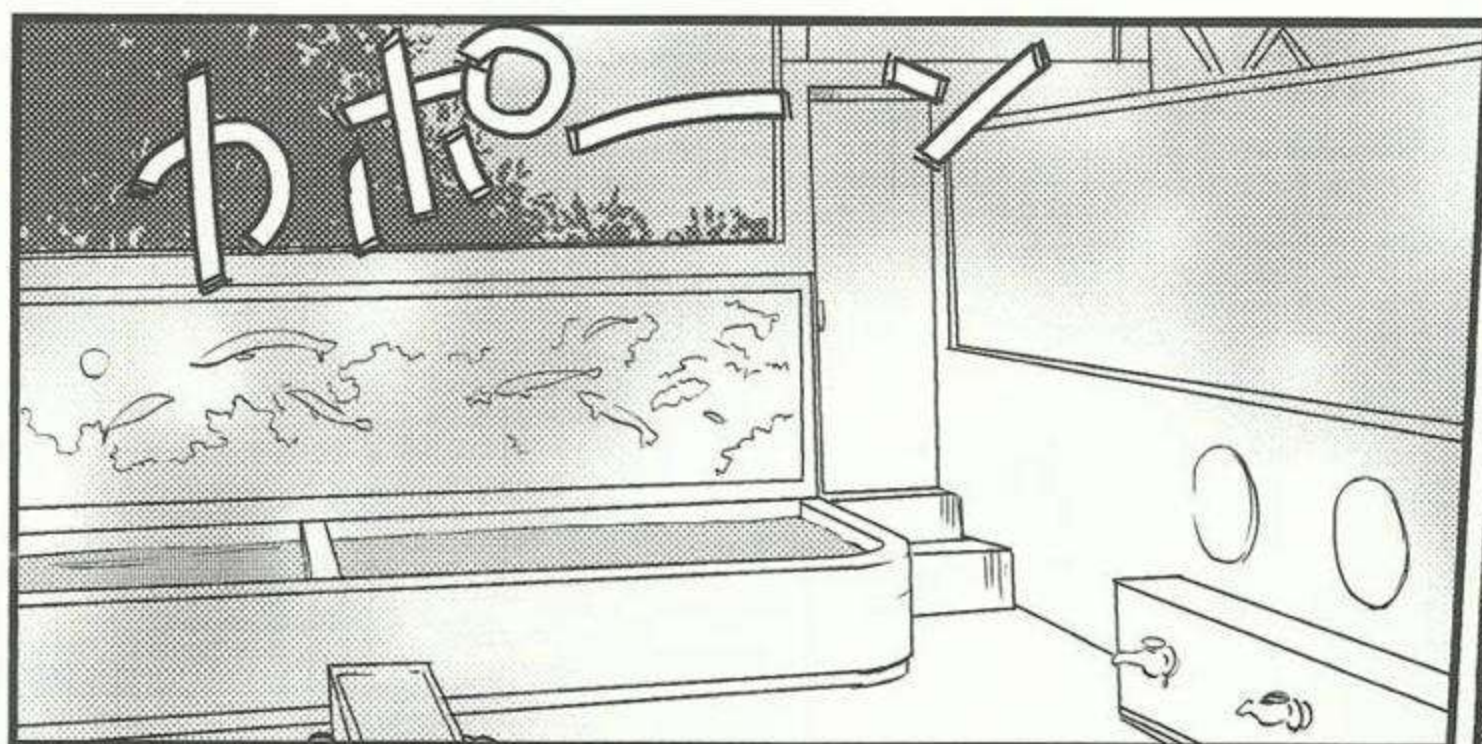
きっと私を
思つてくれて
の事だろう！



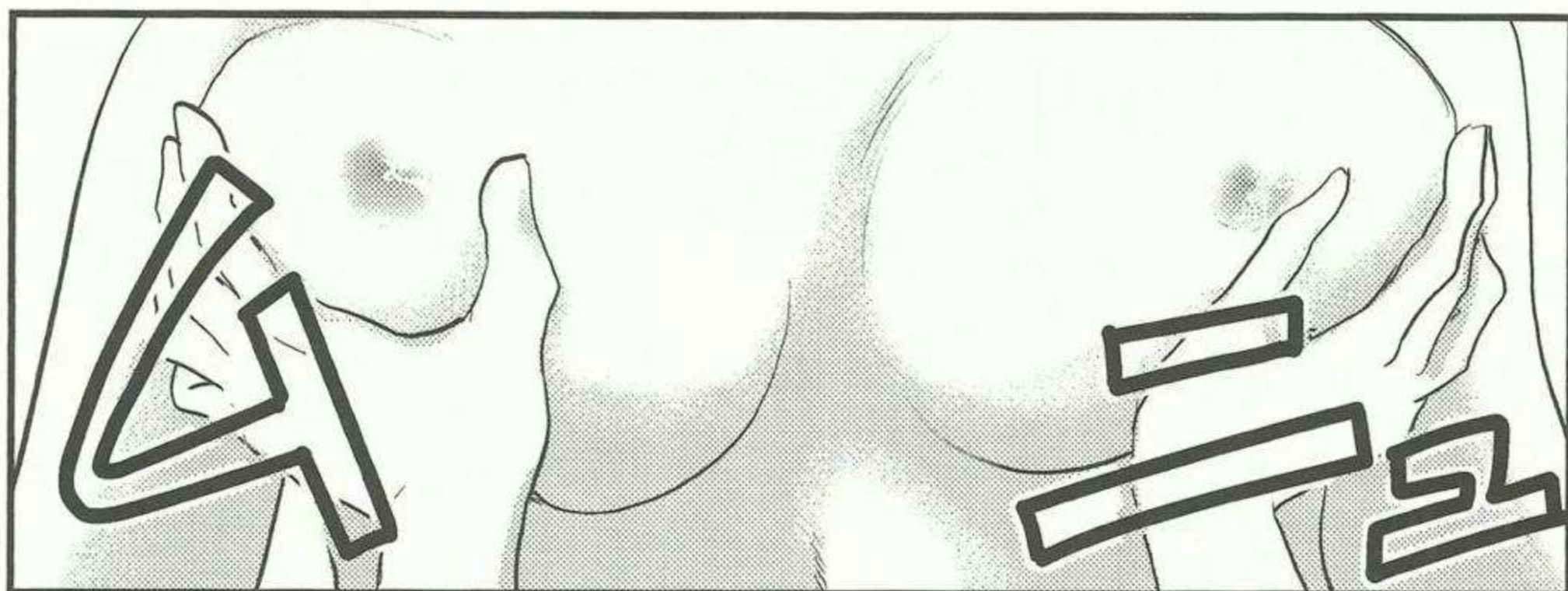
本当に？



私……
ごめも
一緒にし
て
でよろ
しいの









いつか私にも
好きな人が
できて

がっかりしたら
どうしようと思
って……

30に









その様な
ロクデナシの
いう事に
耳を貸す必要は
ありません

マリーダ……

姫さま

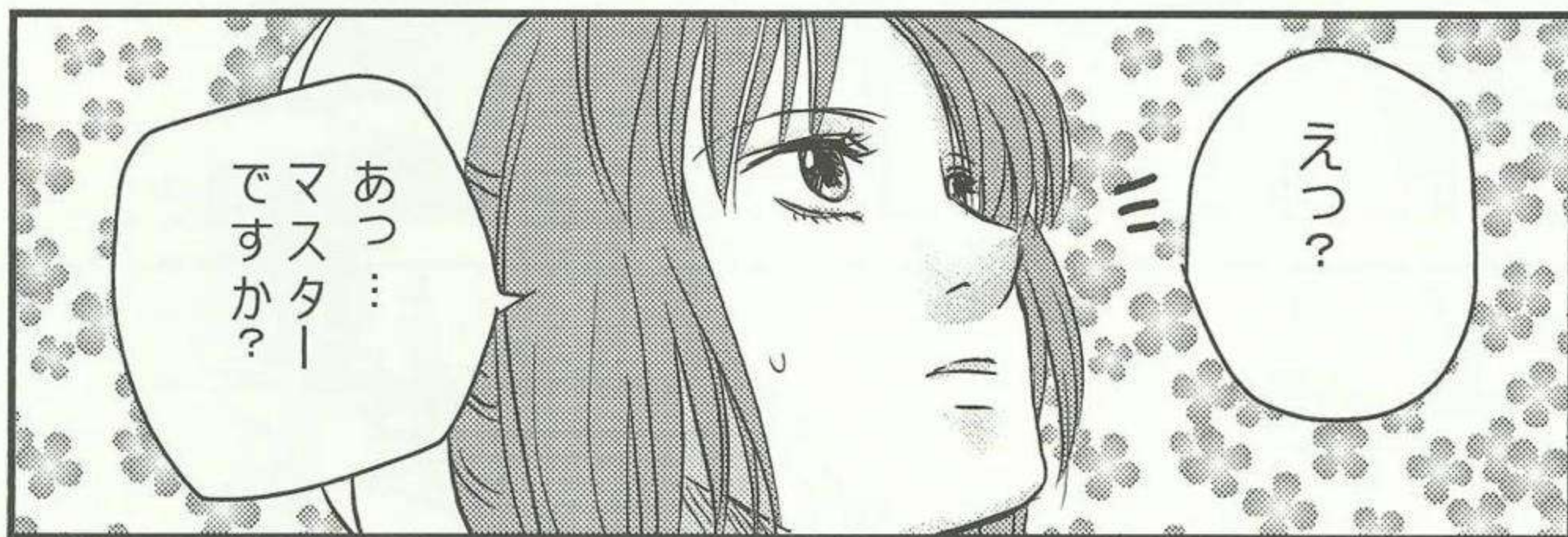
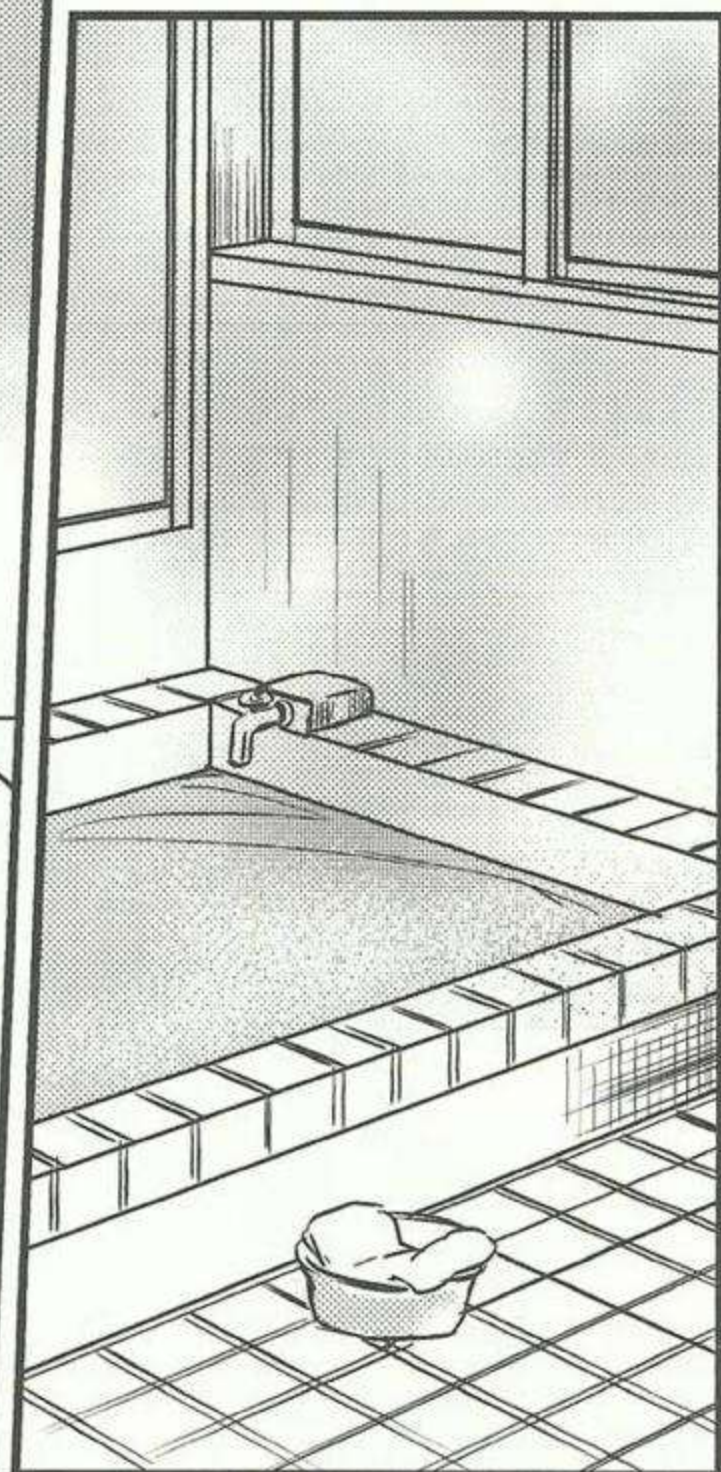


姫さまは
ありのままの
そのままのお姿で
十分に魅力的で
ございます



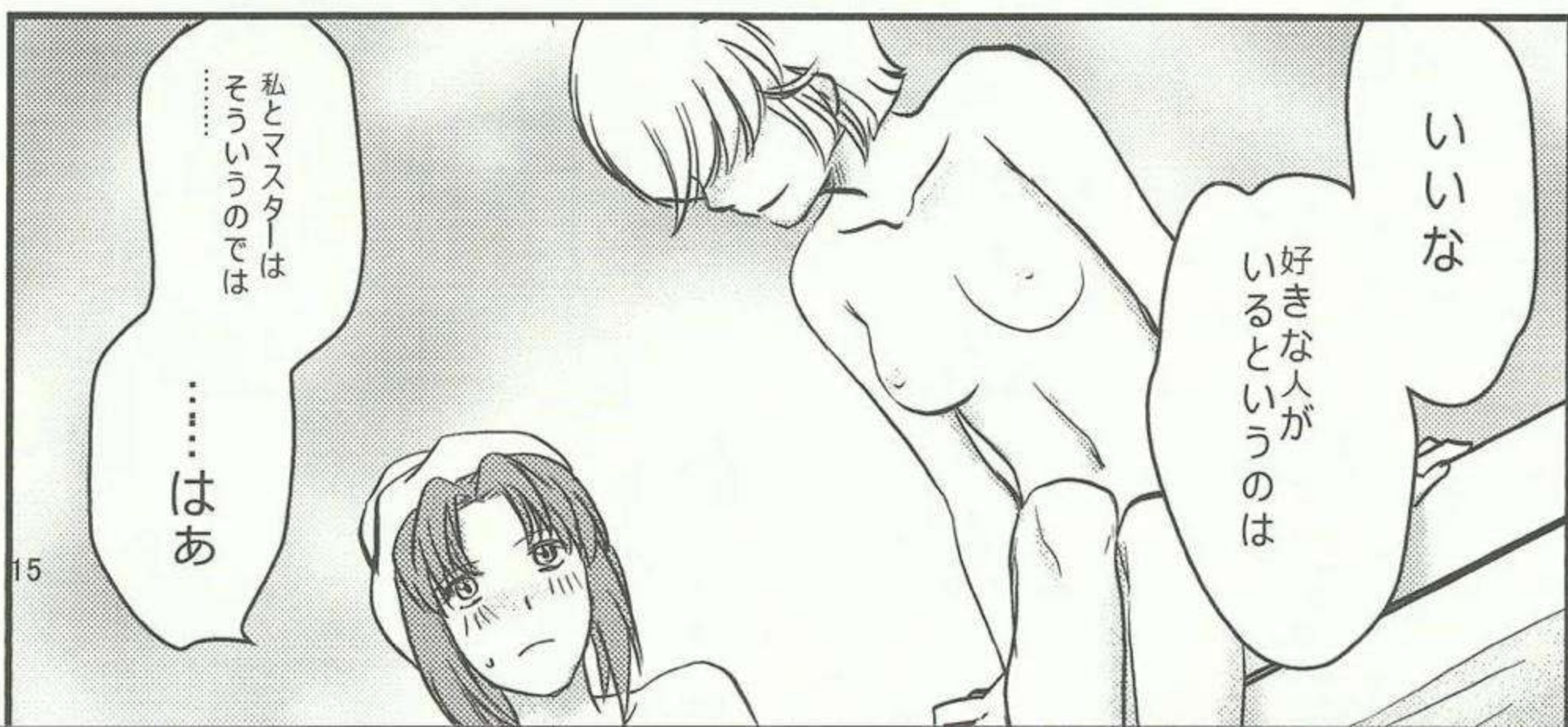


マリダは
ジンネマンが
好きなのだろう？



えっ？

あつ…
マスター
ですか？



いいな

好きな人が
いるというのは

私とマスターは
そういうのでは
……

……はあ

私は

恋など
したことが
ないのだ

姫さま…

でも

いつか
必ずして
みせるぞ

私の事を

一人の女の子として
見てくれる人が
現れたら

きつと
好きになる

そう思うのだ

……
そんな愛らしい
姫さまを見たら

皆姫様に
恋をして
しまいます

真剣

なつ
何をいつておる

うんっ



バナージ
おふろいこ？

姫さま
それは詐欺です

